

# 「新茶たくさん取れたよ」



真剣な顔でお茶摘みをする園児たち

5月12日、有都こども園の園児20人が、新茶が旬を迎えた流れ橋付近の茶畑でお茶摘み体験を楽しみました。この体験は、子どもたちに地元の特産であるお茶について知ってもらうため、茶農家である卒園児の保護者の協力を得て実施されました。はじめに、園児たちはお茶の種類や茶葉の加工工程を勉強。また、粉末になった茶葉を触らせてもらうと、「すごい！砂みたいでさらさら！」と歓声が上がりました。

## 有都こども園20人 お茶摘み

その後、茶葉の摘み方を教わり、今回は新芽から4、5枚目の葉までを摘み取る「普通摘み」を体験。丁寧に葉の枚数を数えながら摘み取り、首から下げた容器に入れていく園児たち。容器が茶葉でいっぱいになると、友だち同士でうれしそうに見せ合いっこしていました。平野羽夏ちゃん(5)は「初めてお茶摘みをしたけど、簡単にできて楽しかった」と話していました。

## 歯磨き シュッシュッ しっかりと

5月18日、南ヶ丘保育園で歯磨き指導が行われ、4〜5歳児22人が、正しい歯磨きの仕方などを学びました。

この指導は、子どもたちに虫歯予防について知ってもらうため、歯科衛生士を講師に招き市内各園で毎年実施されています。はじめに、園児たちはイラストや写真を見ながら、虫歯になりやすい習慣などについて勉強。

「おやつは時間を決めて食べる」「食べた後は歯磨きをする」など、虫歯になら

## 南ヶ丘保育園で22人練習

ないための方法を教わりました。その後、コロナ禍でもマスクをしたまま歯磨き練習ができるよう、先生たちが折り紙で作ってくれた歯ブラシで正しい持ち方を練習。前歯や奥歯、歯の裏側などの磨き方を教わり、園児たちはシュッシュッと声を出しながら一生懸命に歯ブラシを動かしていました。福田璃梨ちゃん(5)は「これから寝る前に歯磨きするとき、一人でやってみる」と話していました。



歯磨きを練習する園児

## まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



マッサージしてもらって笑顔の赤ちゃん

## 親同士 子育て交流深め

生後2〜6カ月の赤ちゃんとその親同士が交流する「ひよこサロン」が5月20日、子育て支援センターあいあいポケットで行われ、親子4組8人が参加しました。

市内の子育て支援センターでは、親子でふれあいながら、同じ年ごろの子どもを持つ親同士で交流を深めてもらおうと、月齢ごとに対象を分けてサロンを実施しています。はじめに、音楽に合わせた

ベビーマッサージなどで、親子でふれあい。お母さんが優しくお腹や背中をなでてあげたり、ほおをツンツンしたりすると、赤ちゃんは気持ちよさそうな表情を浮かべていました。

また、親同士で子育ての近況などについて報告。「最近、離乳食を始めたんです」「口の中を見てみたら、歯が生えてきました」など、日々の子どもの成長を共有しながら、交流を深めていました。

## 今月のこの人



よしだ けいこ 吉田 圭吾さん

流れ橋そばの茶畑で茶業を営む農家。小学生一人のお父さん。 <プロフィール>

## お茶栽培の魅力 子どもたちに伝える

「茶摘みは普段なかなか体験できるものじゃないから、みんな楽しそうやね」。有都こども園の園児たちが茶摘みをする様子を、温かく見守る吉田さん。

同園からの依頼で6年ほど前から園児たちの農業体験に協力していて、田植えや稲刈りのほか、「八幡がお茶の産地だということを知ってほしい」と茶摘み体験も始めました。

日本遺産の一部に認定されている流れ橋そばの茶畑で、体験を始める前には園児たちにイラストを使って摘み方を教えてあげたり、お茶に興味を持ってもらおうと加工した茶葉を見せて

あげたりもしています。

5月に入ると茶摘みが最盛期を迎え、忙しい日々を過ごす吉田さん。「子どもたちが大きくなった時にこの体験を思い出して、茶摘みの担い手になってくれたらうれしいね」と地元の茶業を守るため、お茶栽培の魅力を子どもたちに伝えていきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体等を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。か、秘書広報課へお問合せください。